

「対話を通じた新たなJA構築へ」

そお鹿児島農業協同組合
代表理事組合長 本倉 敬一



新年明けましておめでとございます。皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中はJAの運営及び事業活動に対し、格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、大阪や北海道で発生した地震や西日本豪雨など、大きな災害に見まわれた年でありました。JAグループと致しましても、西

日本豪雨で被災された組合員の方に対して営農支援隊を編成し、当JAからも職員を派遣しました。今こそ協同組合理念である相互扶助の精神で互いに助け合い、被災された多くの方々がこの危機的状況を乗り越え、そして、物心両面の一刻も早い回復を心よりお祈り申し上げます。

また、農業情勢では昨年末からTPP11が発効され、農畜産物等の様々な関税が引き下げられました。本年4月1日より、2年目の関税引き下げとなつて参ります。さらには、日EU・EPA（経済連携協定）およびTAG（日米物品貿易協定）交渉など、我が国の食料・農業に大きな打撃を与える国際貿易協定が今後も控えており、国内の需給情勢・価格動向に注視するなど、一段と

予断を許さない状況となっております。JAグループと致しましては、生産者の高齢化や担い手不足のなか、生産基盤の維持拡充を図るよう地元選出議員と連携し、「日本の農業を守る」農政を推奨して参ります。

さて、本県JAグループでは昨年12月に第26回JA鹿児島県大会を行い、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標を改めて再認識し、JAグループの使命である安心・安全な国産農畜産物の安定供給を将来にわたって実現するとともに、人口減少がすすむ地域社会において、農と地域の結びつきの再構築と、安心して生活することができると地域インフラ機能の提供に全力で取り組んでいくことを決議致しました。「協同でつなぐ

持続可能な農業とくらしの未来」に向け、組合員や地域の皆様と対話を通じ、つながり信頼を築いて参ります。

昨年、当JAは合併25周年の節目を迎えることができました。これもひとえに組合員の皆様のご理解やご協力と関係機関のご指導の賜物と厚く御礼申し上げます。今後も役職員一体となつて、自己改革に鋭意取り組んで参りますので、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が組合員の皆様、地域の皆様にとつても飛躍の年になりますよう衷心より祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。